



～節分とは～



節分とはもともと、立春、立夏、立秋、立冬それぞれの前日、つまり季節の変わり目ごとに行われていました。日本では、立春が1年のはじまりとして特に大切とされ、時代が移り変わっていくにつれて、立春前日の節分が残っているとされています。節分は毎年2月3日と思われている方が多いですが、立春の日付が変わるため常に2月3日ではないそうです。子どもには「節分は2月3日ごろにやるんだよ」と伝えつつ、「でも春のはじまる日によって変わるんだよ」と補足しておくといいですね。

では、なぜ豆まきをするのでしょうか？

穀物である豆には「生命力と魔除けの力」が備わっているとされています。それと合わせて、「魔目（豆）」を鬼の目に投げて「魔滅」し、一年の無病息災を願うという意味合いが込められているそうです。そのため子どもには「豆には鬼を追い払う力があるの。鬼を追い払ってみんなの健康をお願いするんだよ」と伝えるといいですね。

豆まきは、家の主である父親だけ、長男か長女だけと地域によって違いがありますが、現在では家族みんなで豆をまいて楽しむことが主流になっているようです。

さて、豆まきのやり方ですが、豆まきは、鬼がやってくるといわれている「夜」に行います。家族みんながそろった夜に始めるとよいです。豆をまくときは、家の中で一番奥の部屋から玄関に向かってまきます。部屋の中にいるかもしれない鬼を、外へ追い出さなくちゃいけませんからね。子どもには「家族みんながそろった夜に豆まきやろうね。こわい鬼さんは夜に出てくるからおうちからバイバイしないとね」と伝えましょう。

節分を教えるときに、ただ豆まきをすれば良いというだけでなく、意味や由来も伝えることで子どもにとって良い勉強になります。また、ただ怖かっただけ、という思いをしないよう保育園でも、由来については話すようにしています。分かりやすく話してあげることで、節分に対する知識を深めながら、親子でのコミュニケーションの場に役立ててもらえると嬉しいです。

さて、節分に食べる「恵方巻き」ですが「恵方巻き」はもともと関東にはない習慣でした。起源ははっきりと分かっていないようですが、戦前に大阪の寿司商組合がはじめ、戦後に海苔問屋協同組合と組んで「幸運巻寿司」として「丸かぶり早食い競争」が行われたり、1989年に某コンビニエンスストアが「恵方巻き」という名前で巻き寿司を売り出し、2000年以降に全国に広まったとされています。節分の日には、家族団らん、好きな具材で手巻き寿司もいいかもしれませんね！

